

株式会社 丸井グループ

## 2026年3月期 第3四半期決算概要



2026年2月10日

加藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

## 26年3月期 第3四半期 決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 「好き」を応援するビジネス
- ・ バランスシート/資本配分
- ・ ESG
- ・ 通期見通し

本日の内容はご覧の通りです。

## 26年3月期 第3四半期 決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 「好き」を応援するビジネス
- ・ バランスシート/資本配分
- ・ ESG
- ・ 通期見通し

まずは連結決算についてです。

- ① 総取扱高は**9%増の4兆204億円**（前年差+3,480億円）  
引き続き過去最高を更新
- ② 営業利益は**20%増の398億円**（前年差+65億円）  
第3四半期累計として過去最高益
  - 小売は26億円増益の84億円、コロナ前水準を上回る
  - フィンテックは40億円増益の375億円
- ③ 経常利益は**14%増の346億円**（前年差+42億円）、金融費用が増加するも  
順調に増益幅を拡大

決算ダイジェストは以下の3点です。

総取扱高は9%増の4兆204億円となり、引き続き過去最高を更新いたしました。

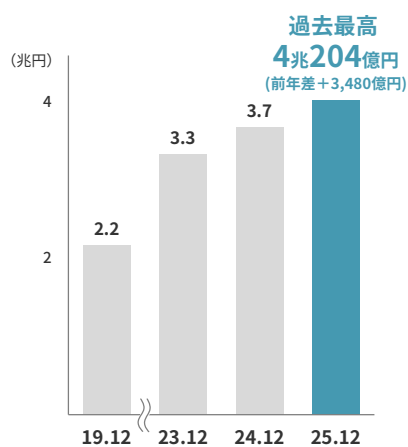
連結営業利益は20%増の398億円、65億円の増益となりました。

セグメント別では、小売は26億円増益し、コロナ前の水準を上回る84億円、  
フィンテックは40億円増益し、第3四半期累計では過去最高の375億円となりました。

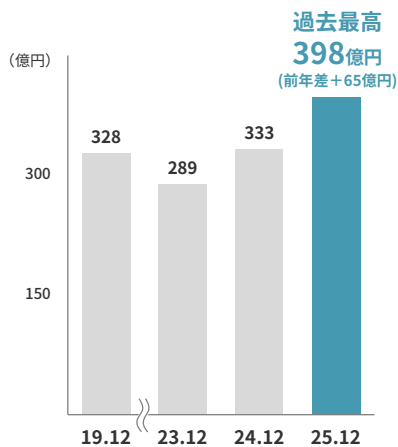
経常利益は金融費用が増加したものの、14%増の346億円となり、順調に増益幅を拡大いたしました。

## 財務指標

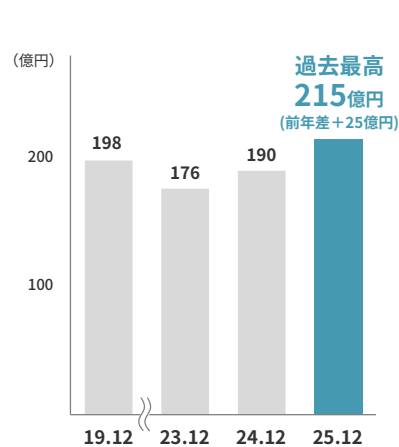
### ■ グループ総取扱高



### ■ 営業利益



### ■ 当期利益



\*企業会計基準第29号(収益認識に関する会計基準)等適用後の数値を記載

財務指標の推移です。

グループ総取扱高は4兆204億円と過去最高を更新いたしました。

営業利益、当期利益ともにコロナ前の水準を上回り、過去最高となりました。

## 営業外損益 / 特別損益の状況

|       | 25年3月期<br>1～3Q | 26年3月期<br>1～3Q | 前年比 | 前年差 | 前年差要因                    |
|-------|----------------|----------------|-----|-----|--------------------------|
|       | 億円             | 億円             | %   | 億円  |                          |
| 営業利益  | 333            | 398            | 120 | +65 | 小売 +26<br>フィンテック +40     |
| 営業外収益 | 8              | 7              | 86  | △1  |                          |
| 営業外費用 | 37             | 59             | 159 | +22 | 金融費用 +22<br><金利+19 残高+3> |
| 経常利益  | 304            | 346            | 114 | +42 |                          |
| 特別利益  | 17             | 24             | 142 | +7  | 保有株売却 +12<br>不動産売却 △6    |
| 特別損失  | 37             | 39             | 107 | +3  | 株式減損 +10<br>店舗閉鎖他 △7     |
| 税引前利益 | 284            | 331            | 116 | +47 |                          |
| 当期利益  | 190            | 215            | 113 | +25 |                          |

営業外損益・特別損益の状況です。

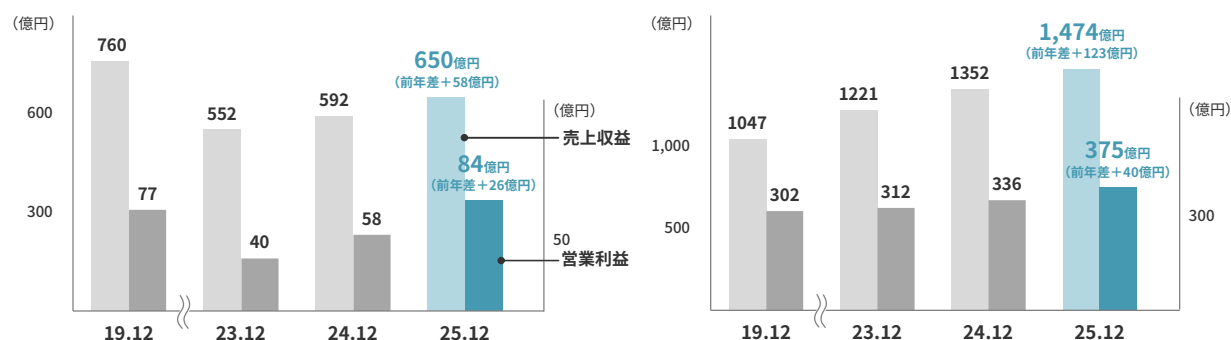
営業外費用は金利上昇の影響などにより、前年に比べ22億円増加したものの、経常利益は14%増と順調に拡大しました。

特別損益は、株式の減損損失がありましたが、政策保有株の処分にとまなう売却益などもあったため、当期利益は13%増の215億円となりました。

## セグメント別の状況（売上収益・営業利益）

### ■ 小売

### ■ フィンテック

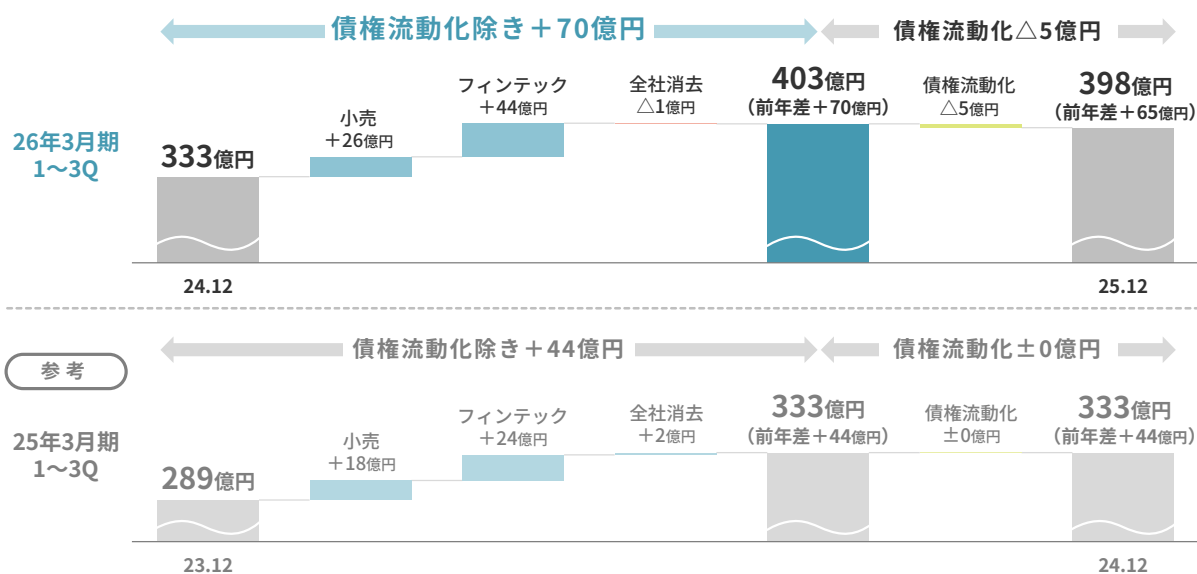


\*企業会計基準第29号(収益認識に関する会計基準)等適用後の数値を記載

セグメント別の売上収益と営業利益の推移です。

小売の営業利益は順調に増益幅を拡大し、コロナ前水準を上回る84億円、フィンテックの営業利益も、過去最高の375億円となり、両セグメントともに増収増益の決算となりました。

## 営業利益増減の内訳



続いて営業利益の増減内訳です。

小売で+26億円、フィンテックで+44億円、全社消去が△1億円となり、債権流動化影響を除いた実質営業利益は70億円の増益となりました。

また、第3四半期には債権流動化を実施しなかったため、債権流動化の前年差影響が△5億円となり、連結営業利益は65億円の増益となりました。

詳細につきましては、事業別のページでご説明いたします。

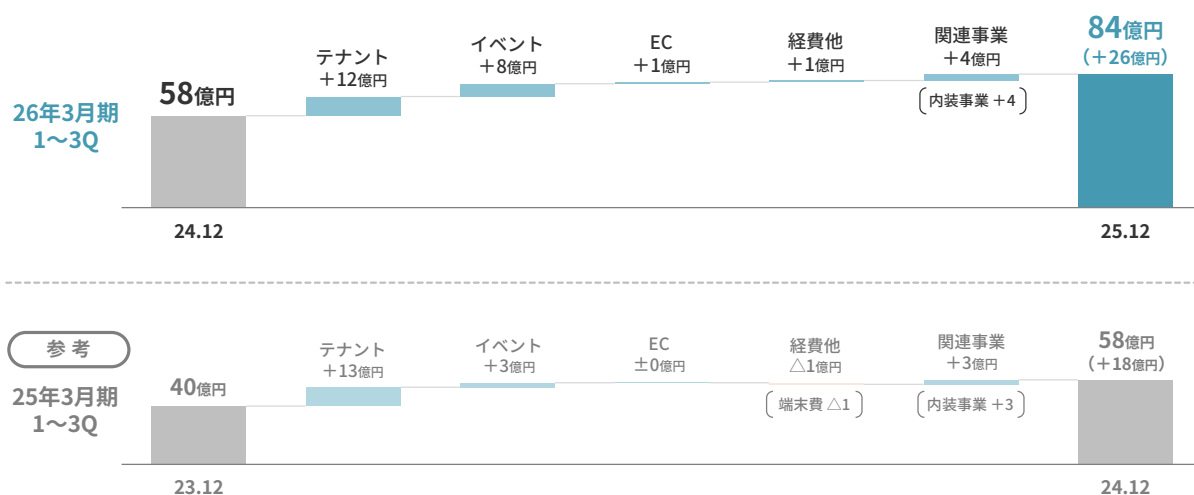
## 26年3月期 第3四半期 決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 「好き」を応援するビジネス
- ・ バランスシート/資本配分
- ・ ESG
- ・ 通期見通し

小売の状況です。

## 小売 営業利益の増減内訳

テナント・イベント収入の増加等により26億円の増益



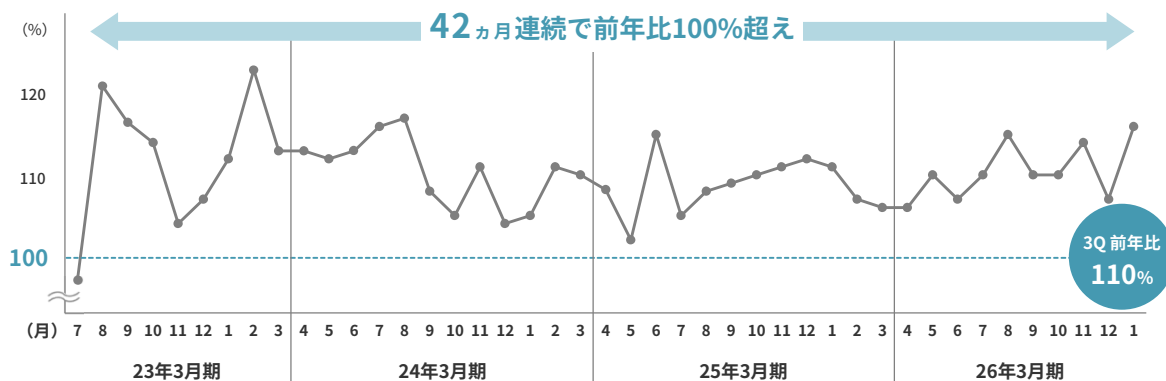
営業利益の増減内訳です。

テナント収入やイベント収入の増加、また関連事業の好調などにより、26億円の増益となりました。

## 小売 既存店取扱高の状況

既存店取扱高は42ヵ月連続で前年実績を上回る

■既存店取扱高の月別前年比推移



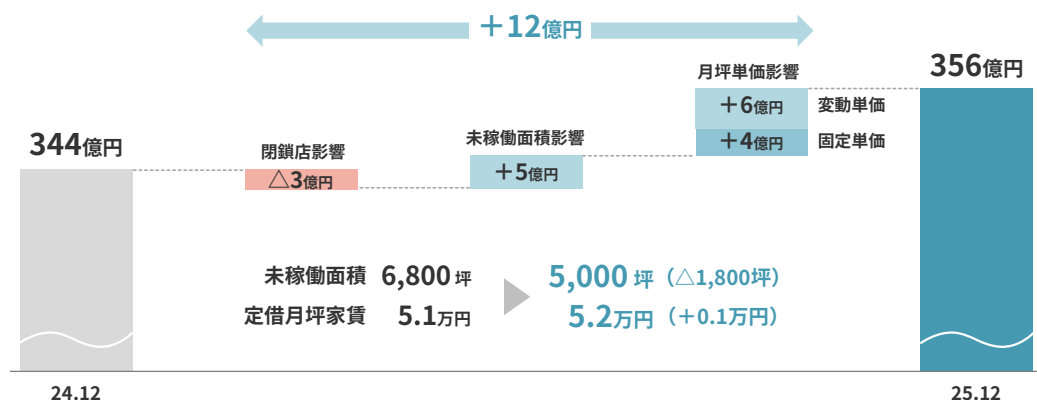
取扱高の状況です。

第3四半期累計の既存店取扱高は110%となり、  
月別では直近1月期の116%まで、42ヵ月連続して前年を上回っております。

## テナント収入の状況

定借面積増加と月坪家賃の単価アップ等により、前年に対し12億円増加

### ■ テナント収入の増減内訳



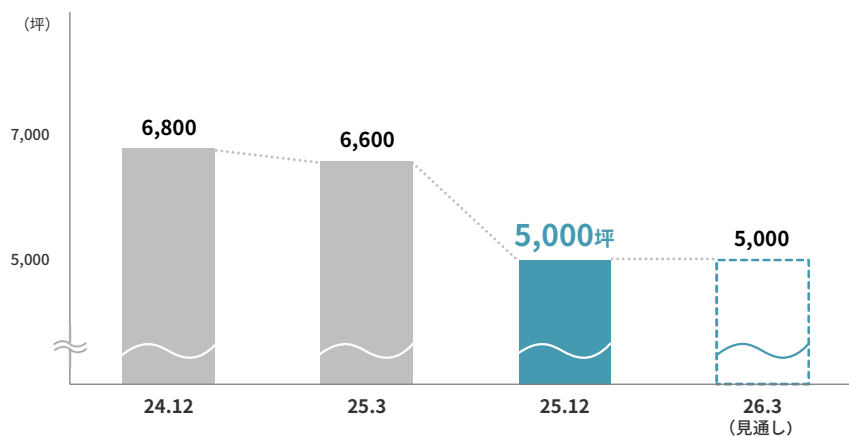
テナント収入の増減内訳です。

閉鎖店の影響が△3億円あったものの、未稼働面積の減少と固定家賃の単価の上昇に加え、取扱高伸長にともなう変動家賃の単価上昇もあり、テナント収入は12億円増加いたしました。

## 未稼働区画の状況

25年12月時点の未稼働面積は5,000坪まで減少

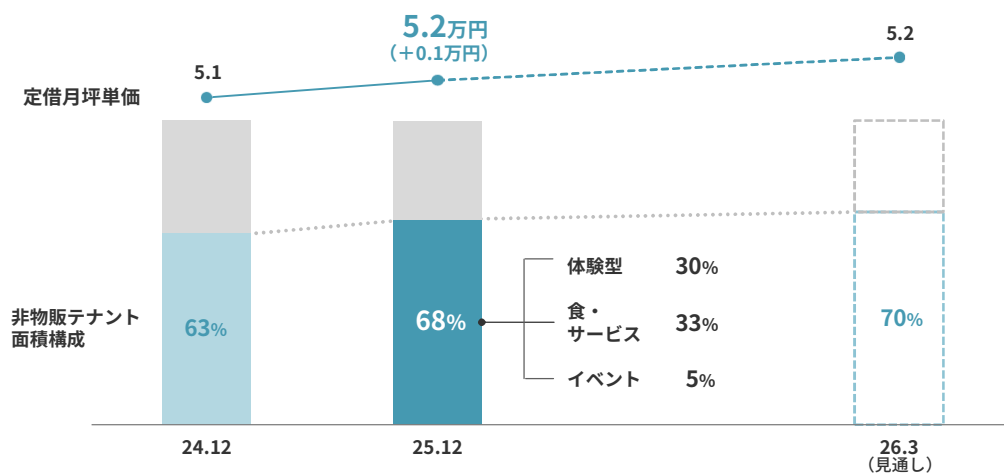
■ 未稼働運行面積の推移（運行平均）



未稼働区画の状況です。  
未稼働面積は前年の6800坪から5000坪まで減少いたしました。

25年12月時点の非物販テナントの面積構成比は68%に拡大（前年差+5%）

## ■ カテゴリー転換の推移



売らない店の進捗です。

25年12月末時点の非物販テナントの面積構成比は、体験型テナントの導入などにより、前年差+5%の68%となり、カテゴリーの転換が進みました。

26年3月期末には非物販テナントの構成を70%まで高める予定です。

## 非物販テナントの拡大

お客さまに喜んでいただける、体験型・食・サービステナントの導入を進める



ONE PIECE BASE SHOP  
(新宿マルイ本館)

- ・「ONE PIECE」の公式旗艦店
- ・Tシャツを作成できるラボもある体験型ショップ



TSUTAYA Trading Card 戸塚  
(戸塚モディ)

- ・誰でも無料で使用できる68席の対戦席
- ・公式大会や店舗独自のイベントを多数企画

非物販テナントの導入実績です。

新宿マルイ本館にONE PIECE BASE SHOP、戸塚モディにTSUTAYA Trading Cardをオープンするなど、体験型テナントの構成が増加しています。

今後もお客さまに喜んでいただける、体験型・食・サービステナントの導入を進めてまいります。

## 26年3月期 第3四半期 決算概要および各事業の状況

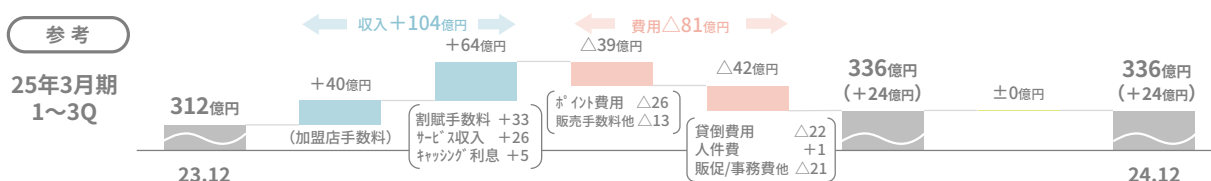
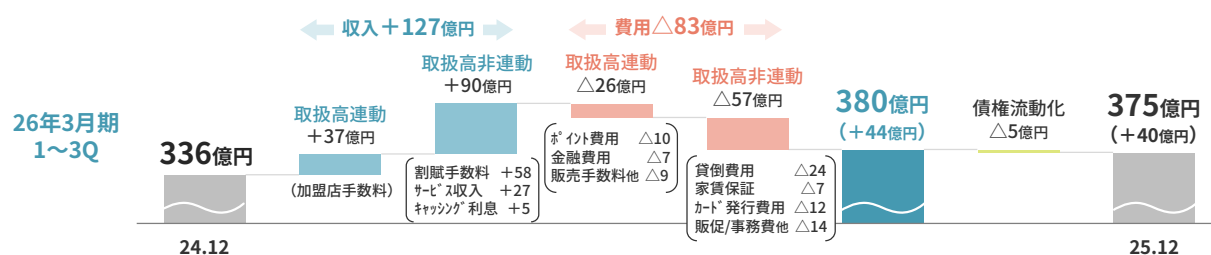
- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ **フィンテック**
- ・ 「好き」を応援するビジネス
- ・ バランスシート/資本配分
- ・ ESG
- ・ 通期見通し

16

フィンテックの状況です。

## フィンテック 営業利益の増減内訳

収入の増加に加え、ポイント費用の抑制等により実質営業利益は44億円の増益



営業利益増減の内訳です。

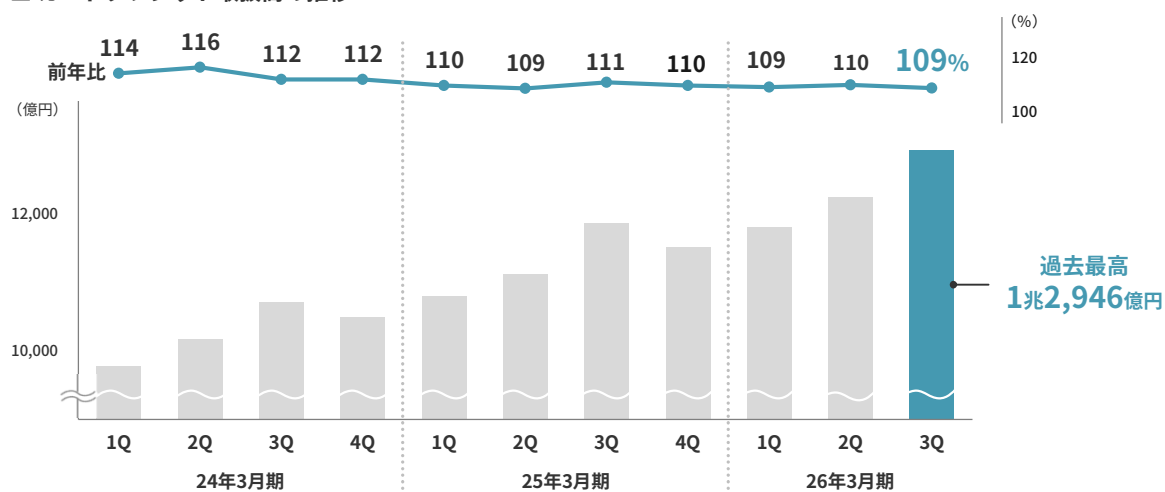
取扱高の拡大や分割・リボ手数料率の変更にとまう収入の増加に加え、ポイント費用の抑制などにより、

流動化影響を除いた実質営業利益は44億円の増益となりました。

## カードクレジット取扱高

第3四半期の取扱高は過去最高の1兆2,946億円（前年比109%）

■ カードクレジット取扱高の推移

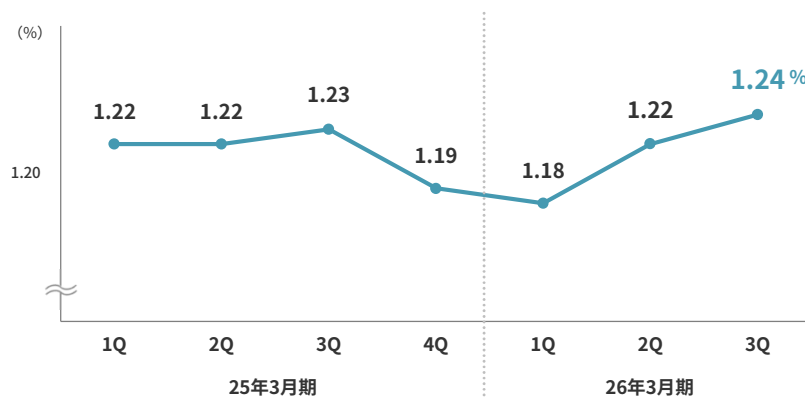


カードクレジット取扱高の推移です。  
第3四半期の取扱高は1兆2,946億円と過去最高となりました。

## 加盟店手数料率

第3四半期の加盟手数料率は外貨決済手数料率の見直し等により1.24%に上昇

■ 加盟店手数料率の推移



※加盟店手数料率：フィンテック取扱高に対する加盟店手数料収入の比率

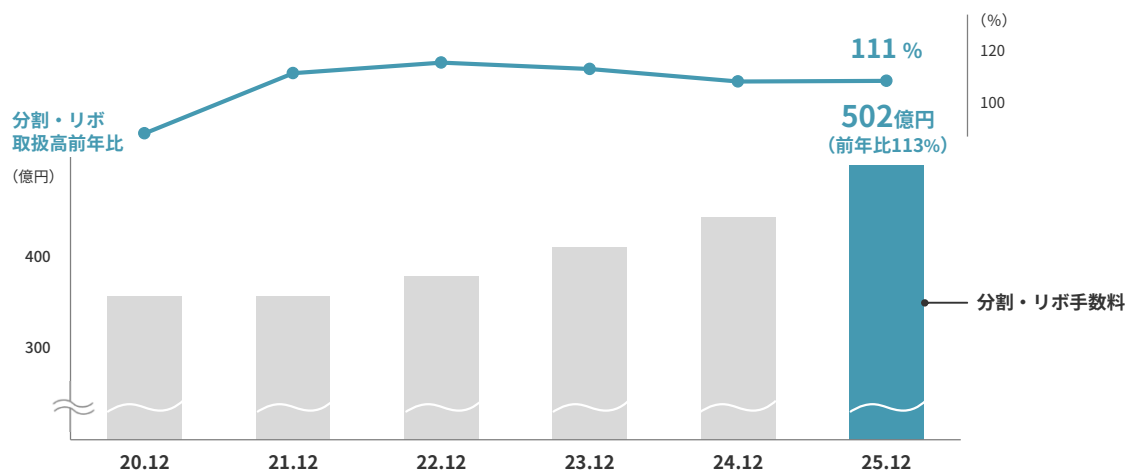
加盟店手数料率の推移です。

第3四半期の加盟店手数料率は、25年7月からの外貨決済手数料率の見直しなどにより、1.24%に上昇いたしました。

## 分割・リボ手数料

分割・リボ取扱高前年比は111%で推移し、手数料収入は13%増の502億円と順調に拡大

■ 分割・リボ手数料の推移



20

分割・リボ手数料の推移です。

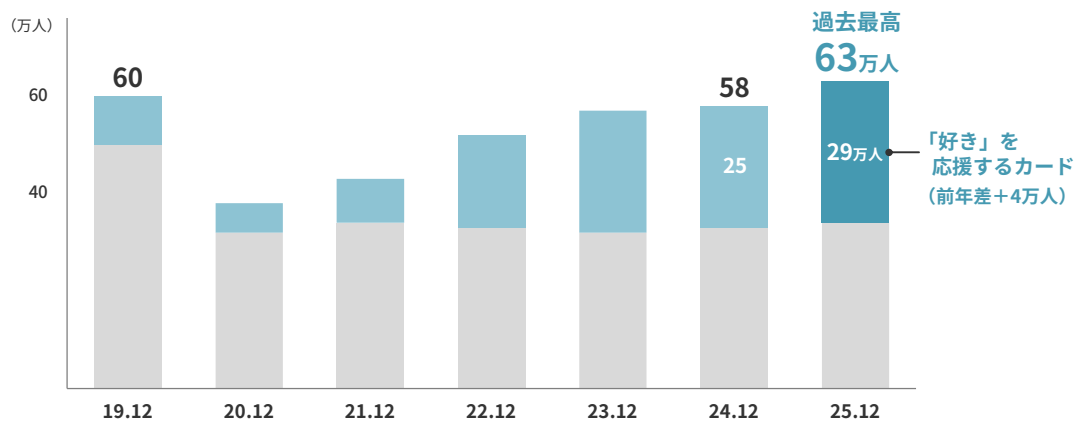
第3四半期の分割・リボ取扱高は手数料率アップによる利用抑制などは特に発生せず、前年比は111%で引き続き順調に推移しました。

また、手数料収入は10月からの手数料率アップも寄与し13%増の502億円と伸ばいたしました。

## 新規入会の状況

新規入会は「好き」を応援するカードの拡大により、過去最高の63万人

■ 新規入会の推移



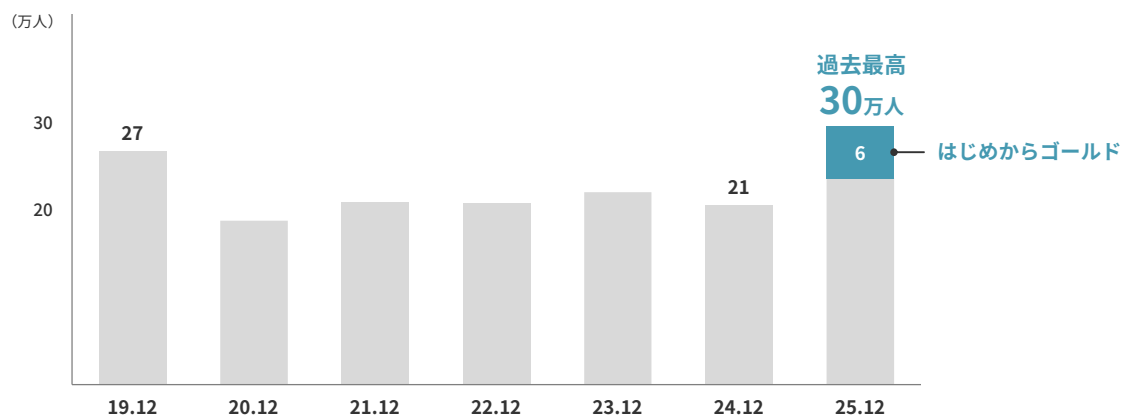
続いて新規入会の状況です。

第3四半期累計の新規入会は、好きを応援するカードの拡大が寄与し、前年に比べて5万人増加の63万人となりました。

## ゴールドカード新規会員の状況

はじめてからゴールド\*等の取り組みにより、ゴールドカード新規会員は過去最高の30万人

### ■ ゴールド新規会員の推移



\* 家賃保証やデンタルローンなどをご利用のお客さまへ入会時からゴールドカードをご案内

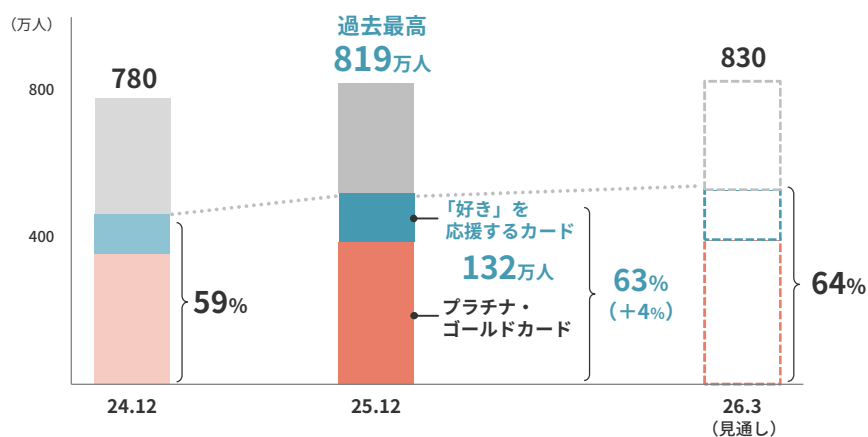
ゴールドカードの新規入会の状況です。

家賃保証などのサービスをご利用のお客さまへ入会時からゴールドカードをご案内する、はじめてからゴールドなどの新たな取り組みなどにより、過去最高の30万人となりました。

## カード会員数の状況

カード会員数は前年から39万人増加し、過去最高の819万人

■ カード会員数の推移



23

以上をふまえたカード会員数の状況です。

カード会員数は、過去最高の819万人となりました。

好きを応援するカードの会員数は132万人となり、プラチナ・ゴールドカードを加えた会員数の構成は、63%まで拡大しました。

## 26年3月期 第3四半期 決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 「好き」を応援するビジネス
- ・ バランスシート/資本配分
- ・ ESG
- ・ 通期見通し

24

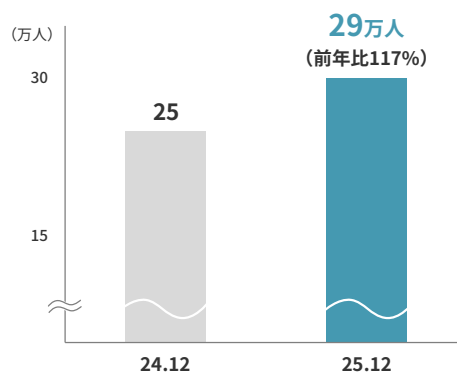
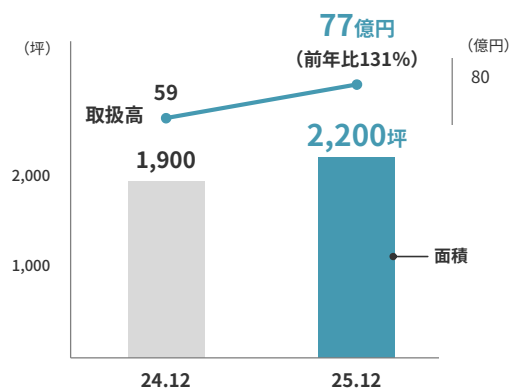
次に「好き」を応援するビジネスの状況です。

## 「好き」を応援するビジネスの状況

「好き」を応援するイベント取扱高や「好き」を応援するカードの新規入会者数は順調に増加

■ 「好き」を応援するイベント面積・取扱高

■ 「好き」を応援するカード新規入会



「好き」を応援するイベントの面積は前年を上回る2,200坪、取扱高は31%増の77億円と順調に規模を拡大しています。

また、「好き」を応援するカードの新規入会は17%増の29万人と伸長いたしました。

## 「好き」を応援するイベント事例

人気コンテンツのポップアップショップを、全国の複数店舗で開催

TVアニメ「呪術廻戦」  
(25年10月～26年1月)



POP UP SHOP アニメ『呪術廻戦』5周年記念  
(渋谷モディ、神戸マルイ、博多マルイ)

「SUPER BEAVER」  
(25年11月)



POP UP STORE 結成20周年記念  
(渋谷モディ)

「好き」を応援するイベントの事例です。  
海外でも人気のTVアニメ「呪術廻戦」、  
結成20周年を迎えるロックバンド「SUPER BEAVER」など、  
人気コンテンツのイベントを複数店舗で展開し、お客さまにも大変ご好評をいただいております。  
今後も多様な「好き」を応援するイベントを開発し、好きを応援するビジネスの  
拡大を進めてまいります。

## 26年3月期 第3四半期 決算概要および各事業の状況

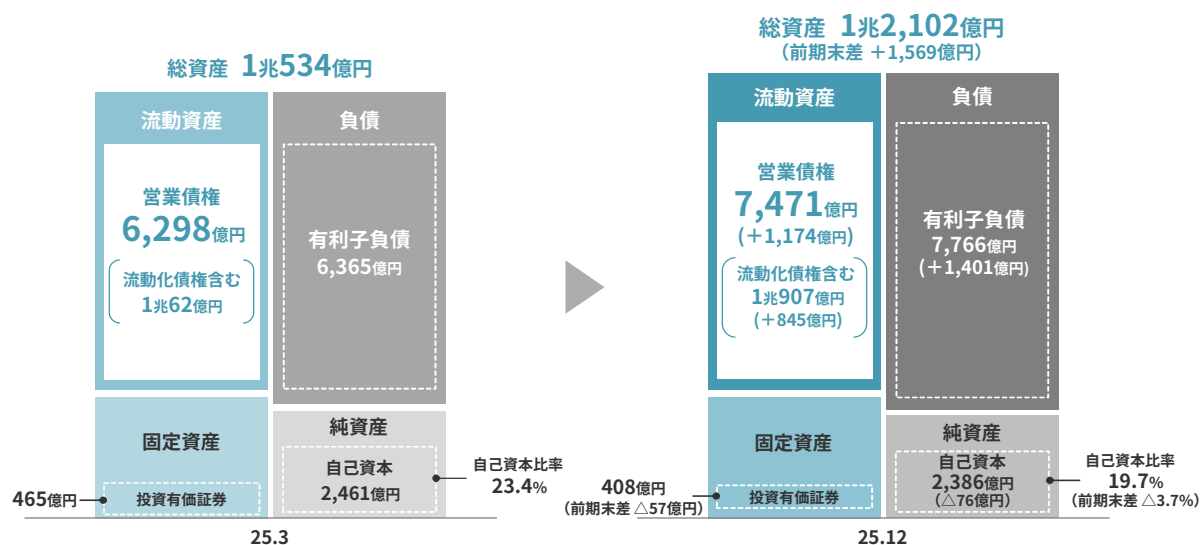
- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 「好き」を応援するビジネス
- ・ バランスシート/資本配分
- ・ ESG
- ・ 通期見通し

27

つづいてバランスシート・資本配分の状況です。

## バランスシートの状況

総資産は営業債権の増加等により、前期末に比べて1,569億円増加



28

バランスシートです。

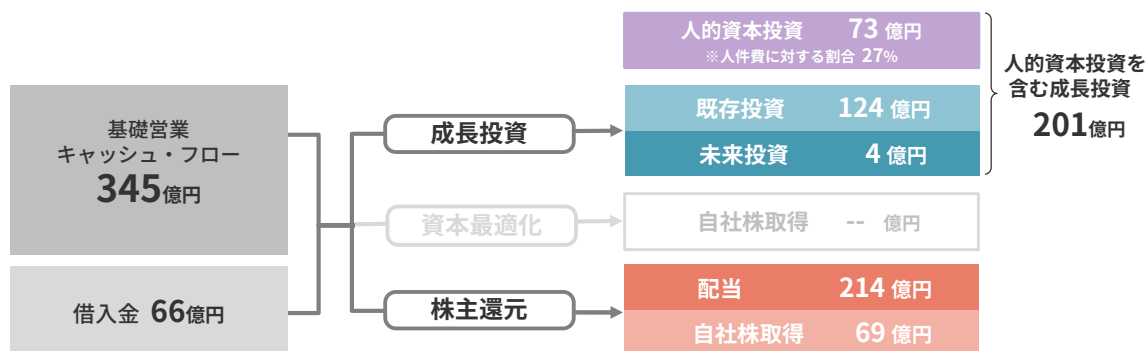
総資産は、営業債権の増加等により、前期末に比べて1,569億円増加し、1兆2,102億円となりました。

自己資本比率は、前期末に比べて3.7%減少し19.7%となりました。

## 資本配分

成長投資に128億円、株主還元には283億円を配分。人的資本投資は73億円で人件費に対する割合は27%

### ■ 資本配分（26年3月期 第3四半期）



資本配分です。

基礎営業キャッシュフロー345億円と借入金66億円を充当し、成長投資に128億円、配当に214億円を配分し、

今期、機動的に実施した自社株取得は69億円となりました。

また、人的資本投資は73億円で、人件費に対する割合は27%となりました。

人的資本投資を含む成長投資額合計は、201億円となっております。

## 26年3月期 第3四半期 決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 「好き」を応援するビジネス
- ・ バランスシート/資本配分
- ・ **ESG**
- ・ 通期見通し

30

ESGの状況です。

## ESGの状況

25年12月に国際的な非営利団体CDPより、最高評価『気候変動Aリスト』企業に7度目の認定

### ■ 主な外部評価



NEW  
7度目の認定  
(25年12月)



NEW  
5年連続  
(25年12月)



NEW  
9年連続  
(25年11月)



9年連続  
(25年7月)



FTSE JPX Blossom  
Japan Index



FTSE JPX Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

2025 CONSTITUENT MSCIジャパン  
ESGセレクト・リーダーズ指数

2025 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)



主な外部評価でございますが、  
12月に国際的な非営利団体CDPより、最高評価である「気候変動Aリスト」の企業として、7度目の認定を受けました。  
そのほかにもご覧の評価をいただいております。

## 26年3月期 第3四半期 決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ 小売
- ・ フィンテック
- ・ 「好き」を応援するビジネス
- ・ バランスシート/資本配分
- ・ ESG
- ・ 通期見通し

32

最後に、通期見通しです。

## EPS・ROE・ROICの3KPIは年初計画どおりの見通し

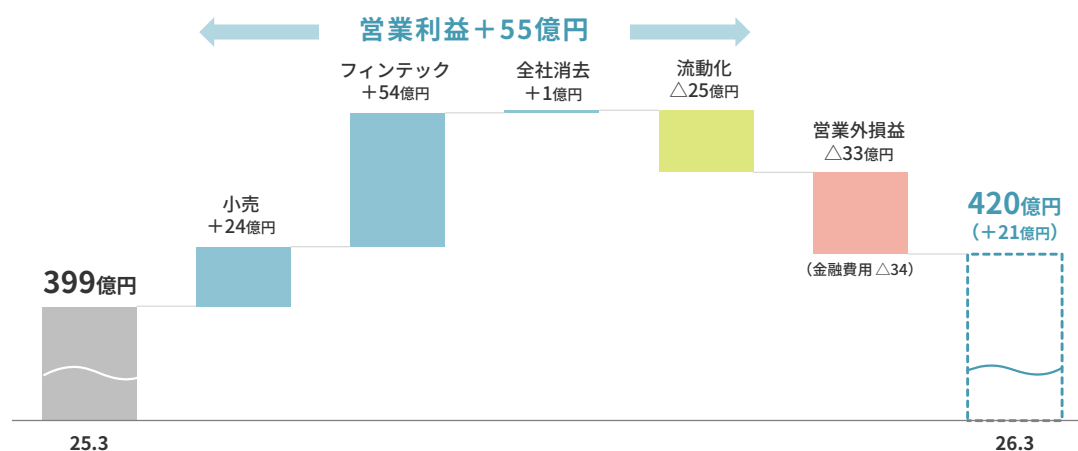
|          | 25年3月期  | 26年3月期  | 前年比 | 前年差    |
|----------|---------|---------|-----|--------|
| EPS (円)  | 143.2   | 155.0   | 108 | +11.8  |
| ROE (%)  | 10.6    | 11.2    | —   | +0.6   |
| ROIC (%) | 3.8     | 3.9     | —   | +0.1   |
| CO2削減量   | 39万t    | 50万t    | 128 | +11万t  |
| < 参考 >   |         |         |     |        |
|          | 兆 億円    | 兆 億円    | %   | 億円     |
| グループ総取扱高 | 4 9,269 | 5 3,900 | 109 | +4,631 |
| 売上収益     | 2,544   | 2,725   | 107 | +181   |
| 売上総利益    | 2,228   | 2,400   | 108 | +172   |
| 販管費      | 1,782   | 1,900   | 107 | +118   |
| 営業利益     | 445     | 500     | 112 | +55    |
| 経常利益     | 399     | 420     | 105 | +21    |
| 当期利益     | 266     | 280     | 105 | +14    |

26年3月期の通期見通しです。

EPS・ROE・ROICの3KPIは年初計画どおりの達成を見込んでおり、  
営業利益は12%増の500億円、当期利益は5%増の280億円と、年初からの計画の変更はございません。

## 26年3月期 経常利益の見通し

26年3月期の経常利益は5%増の420億円を見込む



経常利益の見通しです。

金利の動向は今後も注視してまいります。経常利益は5%増の420億円と年初計画どおりを見込んでおります。

## 26年3月期 セグメント別営業利益見通し

小売は28%増の110億円、フィンテックは7%増の470億円を見込む

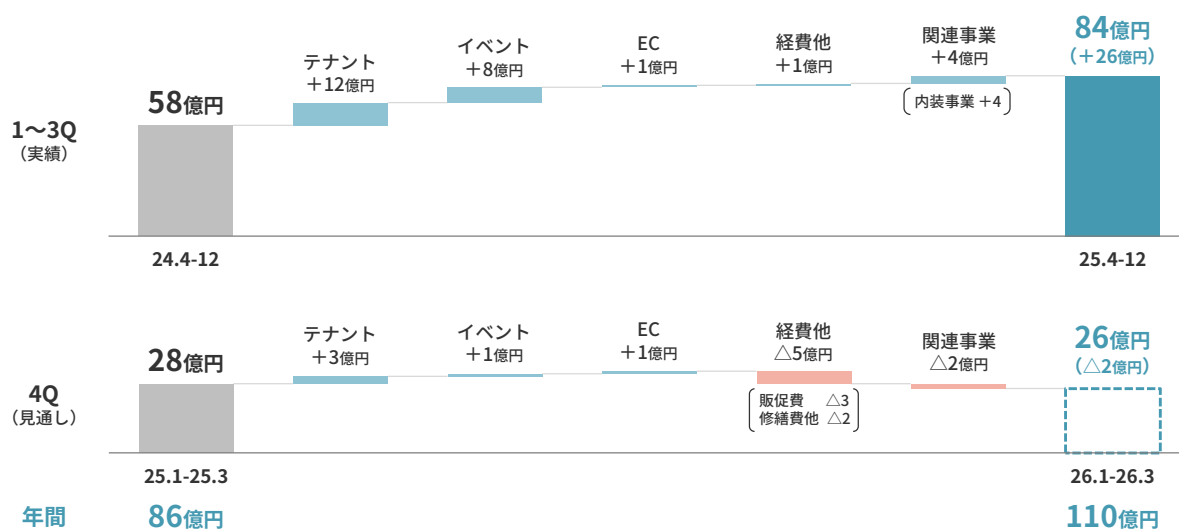
|        | 25年3月期 | 26年3月期 | 前年比 | 前年差 |
|--------|--------|--------|-----|-----|
|        | 億円     | 億円     | %   | 億円  |
| 小売     | 86     | 110    | 128 | +24 |
| フィンテック | 441    | 470    | 107 | +29 |
| 全社・消去  | △81    | △80    | —   | +1  |
| 連結営業利益 | 445    | 500    | 112 | +55 |

セグメント別の営業利益です。

小売は28%増の110億円、フィンテックは7%増の470億円と、こちらも期初から変更はございません。

## 小売 営業利益の見通し

第4四半期は戦略的な経費執行等で2億円減益も、年間は年初計画通りの110億円を見込む



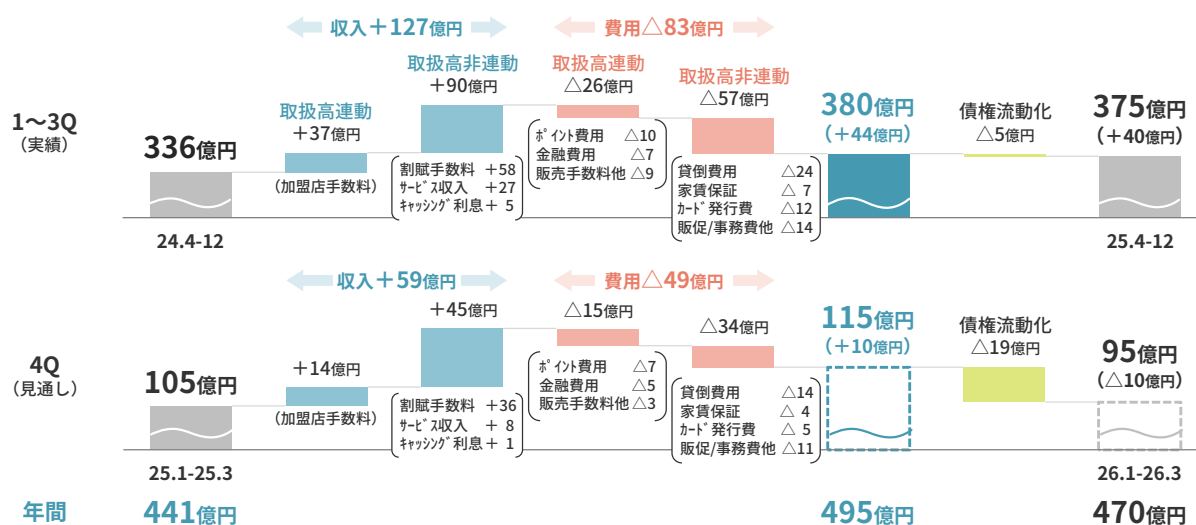
36

セグメント別の今後の見通しです。

第4四半期の小売セグメントは、収入は引き続き順調に伸長いたしますが、販促費などの戦略的な経費執行や、内装事業で前年に大型受注があった影響などにより、営業利益は2億円の減益となる予定です。  
年間見通しは年初計画どおり110億円を見込んでいます。

## フィンテック 営業利益の見通し

分割・リボ手数料率変更影響と債権流動化のマイナス影響を踏まえ、第4四半期は10億円減益の見通し



37

フィンテックの今後の見通しです。

第4四半期の営業利益は、分割リボ手数料率の変更が増益に寄与いたしますが、

来期以降の収益獲得に向けた戦略的な経費執行や

債権流動化を実施しないマイナス影響を踏まえ、10億円減益となる見通しです。

年間見通しは、年初計画どおり470億円を見込んでいます。



# 「好き」が駆動する経済へ

本資料に掲載しております将来の予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。  
お問い合わせは、I R部 [marui-ir@0101.co.jp](mailto:marui-ir@0101.co.jp) にご連絡ください。

0101  
MARUI GROUP

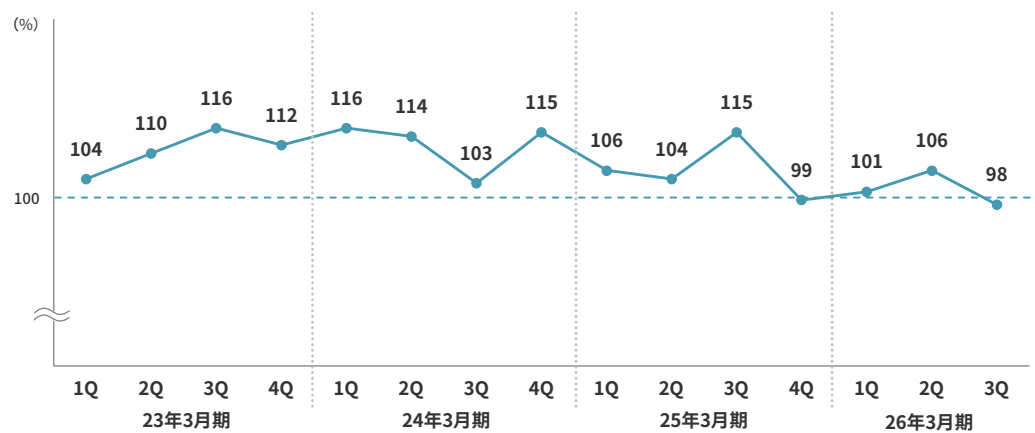
私からは以上です。  
ご清聴ありがとうございました。

# Appendix

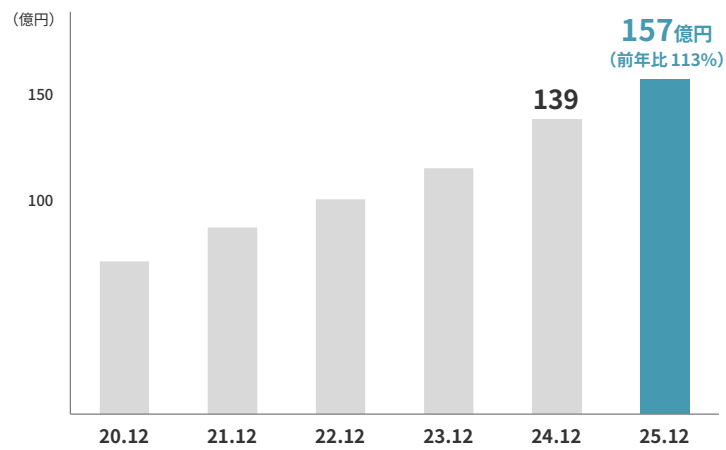


## EC取扱高の推移

■ EC取扱高 前年比

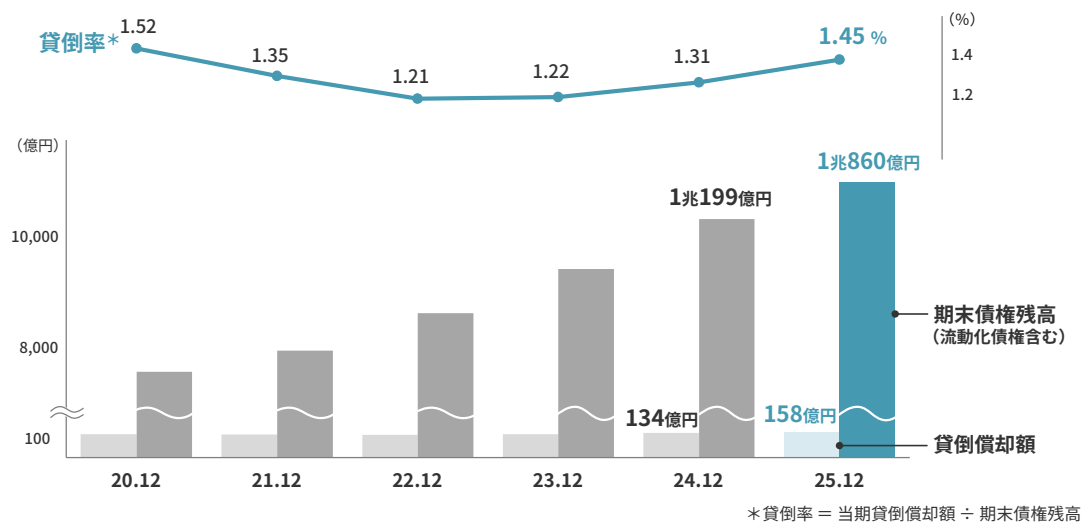


## ■ 売上収益の推移



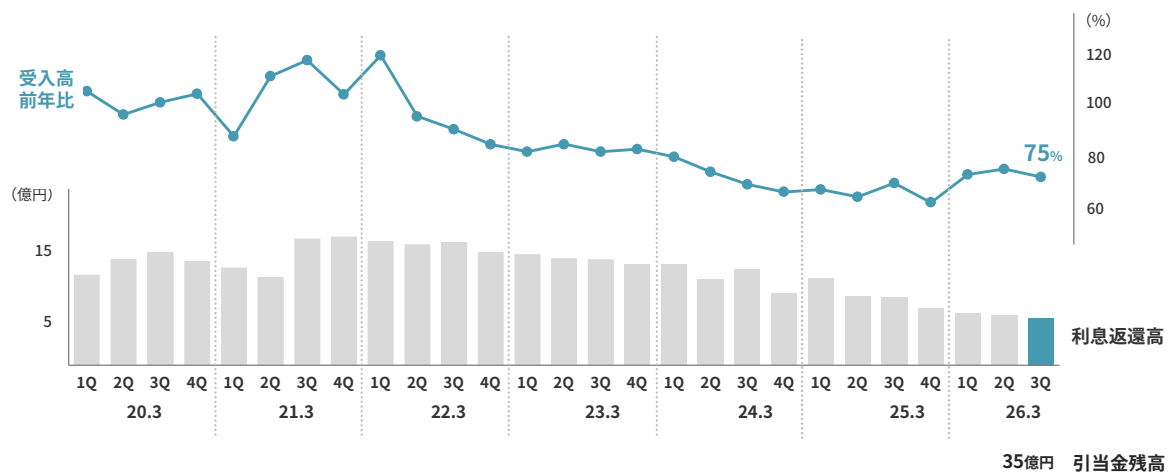
## 貸倒の状況

### ■ 貸倒率の推移



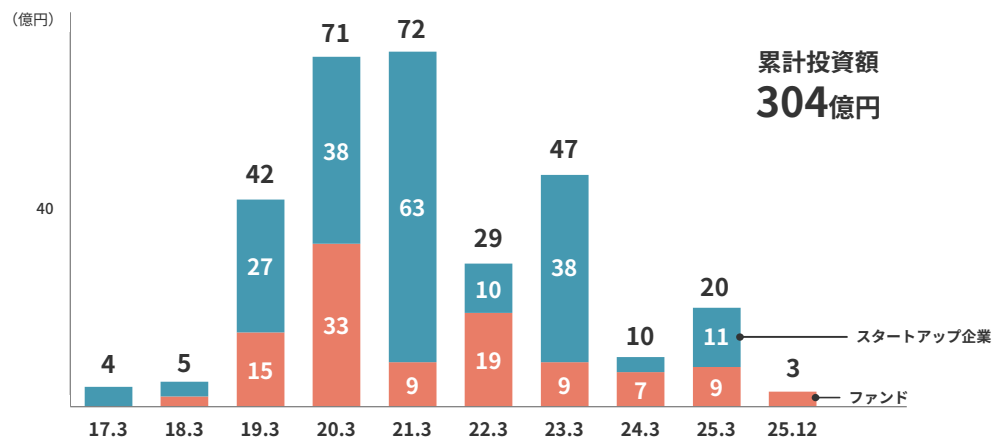
## 利息返還の状況

### ■ 受入高前年比と利息返還高の推移



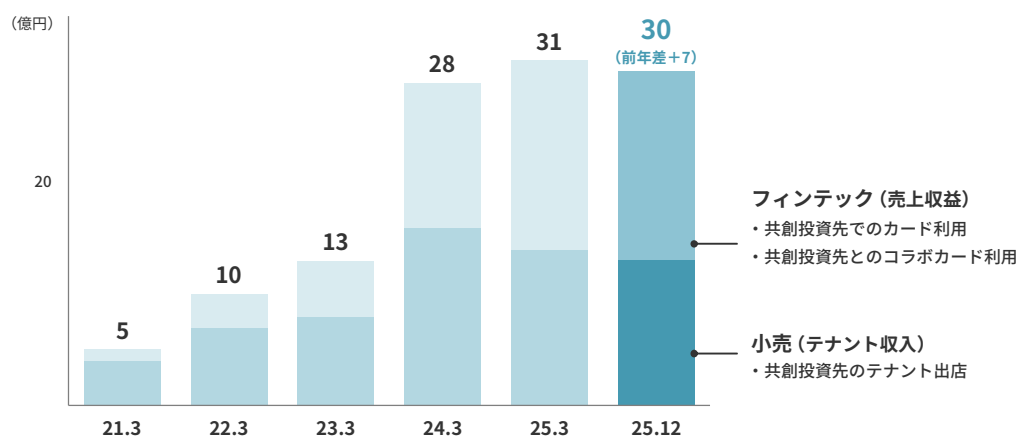
## 共創投資の状況

■ 共創投資の推移



## 共創投資による貢献利益

### ■ 貢献利益額



\* 貢献利益は小売、フィンテックの営業利益に含む

# 債権流動化・分割リボ手数料率変更影響の見通し

## ■ 26年3月期 第2四半期決算時点

|        | 1Q (実績) | 2Q (実績) | 3Q (見通し) | 4Q (見通し) | 26年3月期<br>(見通し) |
|--------|---------|---------|----------|----------|-----------------|
| 流動化損益  | 25      | 5       | △ 28     | △ 27     | △ 25            |
| 譲渡益    | 49      | 33      | 0        | 0        | 82              |
| 償却等    | △ 24    | △ 28    | △ 28     | △ 27     | △ 107           |
| 手数料率変更 | -       | -       | 20       | 20       | 40              |
| 利益影響額計 | 25      | 5       | △ 8      | △ 7      | 15              |
| 前年差    | +26     | △ 6     | △ 5      | 0        | +15             |

## ■ 現状の見通し

|        | 1Q (実績) | 2Q (実績) | 3Q (実績) | 4Q (見通し) | 26年3月期<br>(見通し) | 2Q時点との差 |
|--------|---------|---------|---------|----------|-----------------|---------|
| 流動化損益  | 25      | 5       | △ 28    | △ 27     | △ 25            | ±0      |
| 譲渡益    | 49      | 33      | 0       | 0        | 82              | ±0      |
| 償却等    | △ 24    | △ 28    | △ 28    | △ 27     | △ 107           | ±0      |
| 手数料率変更 | -       | -       | 24      | 24       | 48              | +8      |
| 利益影響額計 | 25      | 5       | △ 4     | △ 3      | 23              | +8      |
| 前年差    | +26     | △ 6     | △ 1     | +4       | +23             | +8      |

#### - 株価指数に関する免責事項 -

• FTSE Russell (the trading name of FTSE International Limited and Frank Russell Company) confirms that MARUI GROUP CO., LTD. Has been independently assessed according to the FTSE4Good criteria, and has satisfied the requirements to become a constituent of the FTSE4Good Index Series. Created by the global index provider FTSE Russell, the FTSE4Good Index Series is designed to measure the performance of companies demonstrating strong Environmental, Social and Governance (ESG) practices. The FTSE4Good indices are used by a wide variety of market participants to create and assess responsible investment funds and other products.

• FTSE Russell confirms that MARUI GROUP CO., LTD. has been independently assessed according to the index criteria, and has satisfied the requirements to become a constituent of the FTSE JPX Blossom Japan Index. Created by the global index and data provider FTSE Russell, the FTSE JPX Blossom Japan Index is designed to measure the performance of companies demonstrating specific Environmental, Social and Governance (ESG) practices. The FTSE JPX Blossom Japan Index is used by a wide variety of market participants to create and assess responsible investment funds and other products.

• FTSE Russell confirms that MARUI GROUP CO., LTD. has been independently assessed according to the index criteria, and has satisfied the requirements to become a constituent of the FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index. The FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index is used by a wide variety of market participants to create and assess responsible investment funds and other products.

• THE INCLUSION OF MARUI GROUP CO., LTD. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICEMARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF MARUI GROUP CO., LTD. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

END

